

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年4月16日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22320152

研究課題名（和文） ヨーロッパ史における政治と宗教のダイナミズムと国家的秩序の形成

研究課題名（英文） Dynamism of politics and religions in the European history and formations of states

研究代表者

甚野 尚志（JINNO TAKASHI）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：90162825

研究成果の概要（和文）：本科研では、中近世ヨーロッパ世界における政治権力構造の発達を、キリスト教の諸宗派（カトリック、ギリシア正教、プロテスタント諸派）の多元性と宗派化の過程との関連で考察した。すなわち、中世から近世にかけてのヨーロッパ世界では、キリスト教会が多面的にそれぞれの宗教世界を構築するとともに、特定の宗派教会と政治権力が一体化し、同一宗派の政治勢力のブロック化が進行し、教会、国家、社会のあらゆる領域で宗派化が進展する。その実態を地域ごとに解明し、また諸宗派間の紛争の形態や、調停の制度と寛容理念の形成も考察した。

研究成果の概要（英文）：This project analysed the development of the structures of political power in the medieval and early modern times of Europe in relation to the plurality and process of confessional divisions of Christian sects (Catholic, Greek orthodox, Protestants). In the world of medieval and early modern Europe, Christian churches formed own religious organization plurally and at the same time churches and political powers were gradually combined. Christian sects formed own blocks. We analysed the reality of each area, the forms of conflicts between sects, the systems of arbitrations, the formation of idea of tolerance.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2011年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
2012年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
総計	13,800,000	4,140,000	17,940,000

研究分野：史学

科研費の分科・細目：西洋史

キーワード：中世史

1. 研究開始当初の背景

本科研プロジェクトは、その前の科研費・基盤(B)「中近世ヨーロッパのキリスト教会と民衆宗教」の共同研究を継承し、発展させたものである。以前の科研では、中近世ヨーロッパのキリスト教会と民衆宗教との関係を扱ったが、本科研プロジェクトでは、教会の

宗教権力と世俗権力との関係に焦点をあて、中世から近代のヨーロッパ世界で、宗教権力との対抗および融和のなかから、国家的秩序（諸侯領、都市国家、領邦、王国、帝国など）が形成されていく様相を分析した。とくに共同研究として、西欧、東欧、ビザンツの各地域を対象とし、国家的秩序形成におけるキリ

スト教諸宗派の役割を比較史的に考察しようとした。

2. 研究の目的

ヨーロッパの歴史を他の世界の歴史と比較するとき、世俗権力と宗教権力の対抗関係が生み出す「政治と宗教のダイナミズム」が、特殊ヨーロッパ的な支配や国制のあり方を形成したことは明らかである。本科研プロジェクトでは、諸侯領、都市国家、領邦、王国、帝国などの国家的秩序が形成される過程で、「政治と宗教のダイナミズム」がいかなる影響を及ぼしたかを考察することを目的とする。とくに本科研プロジェクトでは、中世カトリック教会および近世・近代のキリスト教諸宗派が国家的秩序の形成に関与した様相を、宗教権力と世俗権力との相互影響・相互補完の関係の視角を重視しつつ、また時代や地域の偏差も考慮して分析することを目的とした。また、何より我々の共同研究が目的としたのは、これまで、宗教と政治とをめぐらる問題の考察が中世世界と近世世界とを断絶の相のもとで見てきたことを反省しつつ、中世から近世への連続性の側面を考慮して、共同研究を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

本科研プロジェクトでは、研究目的を以下の方法で達成した。

本科研プロジェクトでは、分担者の例会を学期中に2か月の一度のペースで開催してきた。そして、そうした研究会には、大学院生や若手研究者も交えつつ議論を行い、研究を進めた。とくに、分担者のうち中世史研究者を中心に、2011年5月には日本西洋史学会（日本大学）で小シンポジウム「中世ヨーロッパ世界にとっての「ローマ」」を開催し、共同研究の中間報告を学会の場で行った。また2012年5月にも日本西洋史学会（明治大学）で、今度は分担者のうち近世史研究者が中心となり、小シンポジウム「近世ヨーロッパの宗教と政治－宗派分裂の作用と反作用」を開催し、共同研究の中間報告を行った。

また共同研究の3年間の間に、各分担者がヨーロッパに渡航して、資料収集や現地での意見交換を行い、新しい研究の視角や発想を学んだ。

4. 研究成果

現在の科研で我々は、中近世ヨーロッパ世界における政治権力構造の発達を、キリスト教の諸宗派（カトリック、ギリシア正教、異端諸派、プロテスタント諸派）の多元性と宗派化の過程との関連で考察してきた。すなわち、中世については、カトリックとギリシア正教とを包摂する中世キリスト教世界を、ローマ帝国の普遍性と個別地域のキリスト教

諸宗派の宗教的慣習との対抗のなかで解き明かし、また中世から近世にかけてのヨーロッパ世界については、キリスト教会が多元的にそれぞれの宗教世界を構築する局面を宗派化現象に視点を当てて考察した。とくに近世では、特定の宗派教会と政治権力が一体化し、同一宗派の政治勢力（国家ないし領邦）のブロック化が進行し、教会、国家、社会のあらゆる領域で宗派化が進展するが、我々はその実態を地域ごとに解明し、また諸宗派間の紛争の形態や、調停の制度と寛容理念の形成も考察した。また本科研では、もうひとつの柱として中近世ヨーロッパにおけるキリスト教、ユダヤ教、イスラーム教の関係も考察したが、その問題は、中世のイベリア半島での諸宗教の共存の問題などを中心に議論がなされた。（参照、踊共二「宗派化論：ヨーロッパ近世史のキーコンセプト」『武蔵大学人文学会雑誌』42(3/4)号、2011年。現在の科研の成果は「日本西洋史学会」の2011年と2012年の小シンポジウム「中世ヨーロッパ世界にとっての「ローマ」」、「近世ヨーロッパの宗教と政治－宗派分裂の作用と反作用」で中間報告がなされたが、最終的に17本の論文集－甚野尚志・踊共二編『中近世ヨーロッパの宗教と政治－キリスト教世界の多元性と統一性－』ミネルヴァ書房－として2013年に刊行される）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計9件）

根占 献一 「ローマとルネサンスの世界性－2011年度研究覚え書から」、『学習院女子大学紀要』、査読無、14号、2012年、75-92頁。

根占 献一 「プロクロスとクザーヌス、フィチーノ、そしてヘーゲル」『新プラトン主義研究』、査読有、11号、2012年、1-4頁。

踊共二 「宗派化論：ヨーロッパ近世史のキーコンセプト」、『武蔵大学人文学会雑誌』、査読無、42号(3/4)、2011年、109～158頁。

根占 献一 「コロナ、ミケランジェロ、ポントルモ－時代と向き合う芸術家たち」、『学習院女子大学紀要』、査読無、13号、2011年、131～145頁。

三浦 清美 「ボリスとグレープの列聖」、『エクスフランス－ヨーロッパ文化研究』、査読有、1号、2011年、138～152頁。

甚野 尚志 「報告(1)－12世紀西欧の知識人と

ビザンツ世界」、「フォーラム「シンポジウム：ビザンツ文明を考える」、『西洋史学』、査読無、238号、2010年、40～41頁。

大月康弘「コメント(2)ー甚野報告、和田報告、太記報告に寄せて」、「フォーラム「シンポジウム：ビザンツ文明を考える」、『西洋史学』、査読無、238号、2010年、48～49頁。

大月康弘「ビザンツ国家の行政機構と教会組織ー地域統合の制度とイデオロギー」、『歴史学研究』、査読無、872号、2010年、157～165頁。

Yasuhiro OTSUKI, Levissi Village (Kaya) and the Population Exchange between Greece and Turkey. in Kazuo ASANO (ed.), The Island of St. Nicolas. Osaka U.P., 2010.2. pp. 275-284. 査読無.

〔学会発表〕(計2件)

日本西洋史学会 61 回大会 (日本大学) 2011年5月、小シンポジウム I

中世ヨーロッパ世界にとっての「ローマ」

第1報告：甚野 尚志 (早稲田大学)

「「頭」のローマ、「四肢」のコンスタンティノーブルー教皇の首位権の考察」

第2報告：三佐川 亮宏 (東海大学)

「ローマ帝国なくしてドイツ・ネーションなしー中世ローマ帝国とドイツ人のエトノス生成」

第3報告：大月 康弘 (一橋大学)

「ビザンツ帝国と「第2のローマ」論ー帝権の座所とその移転」

第4報告：三浦 清美 (電気通信大学)

「終末論としてのローマーモスクワ＝「第3のローマ」論をめぐって」

第5報告：根占 献一 (学習院女子大学)

「教皇座ローマの歴史意識ールネサンスにおける転換」

日本西洋史学会 62 回大会 (明治大学)、2012年5月、小シンポジウム I

「近世ヨーロッパの宗教と政治ー宗派分裂の作用と反作用ー」

趣旨説明 踊 共二 (武蔵大学)

第1報告 皆川 卓 (山梨大学)

「17世紀絶対主義領邦における「理性」ーバイエルン公の対外政策からー」

第2報告 和田 光司 (聖学院大学)

「17世紀初期フランスにおける王権とプロテスタント」

第3報告 青柳かおり (早稲田大学・研究員)

「イングランド国教会と非国教徒ー「包括」と「寛容」の近世史ー」

コメント1 佐々木博光 (大阪府立大学)

コメント2 深沢 克己 (東京大学)

〔図書〕(計3件)

甚野尚志・益田朋幸編『ヨーロッパ中世の時間意識』知泉書館、2012年

踊共二・岩井隆夫編『スイス史研究の新地平：都市・農村・国家』昭和堂、2011年

踊共二『図説スイスの歴史』河出書房新社、2011年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

甚野 尚志 (JINNO TAKASHI)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：90162825

(2) 研究分担者

踊共二 (ODORI TOMOJI)

武蔵大学・人文学部・教授

研究者番号：20201999

(3) 研究分担者

三浦清美 (MIURA KIYOHARU)

電気通信大学・情報理工学部・准教授

研究者番号：20272750

(4) 研究分担者

印出忠夫 (INDE TADAO)

聖心女子大学・文学部・准教授

研究者番号：30232721

(5) 研究分担者

根占献一 (MEJIME KENNICHI)

学習院女子大・国際文化交流学部・教授

研究者番号：50208287

(6) 研究分担者

長谷川まゆ帆 (HASEGAWA MAYUHO)

東京大学大学院・総合文化研究科・教授

研究者番号：60192697

(7) 研究分担者

関 哲行 (SEKI TETSUYUKI)

流通経済大学・社会学部・教授

研究者番号：60206620

(8) 研究分担者

松園 伸 (MATSUZONO SHIN)
早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号 : 60239019

(9)研究分担者
大月康弘 (OTSUKI YASUHIRO)
一橋大学大学院・経済学研究科・教授

研究者番号 : 70223873

(10) 研究分担者
和田光司 (WADA MITSUJI)
流通経済大学・社会学部・教授

研究者番号 : 60206620

(11)研究分担者
皆川 卓 (MINAGAWA TAKU)
山梨大学・教育人間科学部・准教授

研究者番号 : 90456492